

【異文化交流】7月11日、山北小学校とDOWA2 プライマリースクールをSkype（インターネット電話）で繋ぎ異文化交流を行いました。テレビ電話を行う前に、山北小学校の生徒にはマラウイの事をクイズ等を踏まえて説明してもらい、マラウイの子供達には日本の説明と、世界が抱えている様々な問題を話し「世界は一つ」だと伝えました。その後テレビ電話を通じて、お互いの学校名を紹介・歌の披露をするなどして交流を行いました。私はマラウイに居るのでこちらの状況しか分かりませんが、マラウイの子供達は興味津々。好きな食べ物や、将来の夢を質問し合うなど、本当に有意義な時間を過ごせたと思います。この交流を行うまでは、ほとんどの子供がお互いの国の名前すら知りませんでした。でも、終わった頃には互いの国や世界に向けて大きな興味を持った子供も少なくないはず。私は日本の説明をする中で、我が国が誇るテクノロジーに関する話を簡単に行いました。そして、この中からもその様な開発に加わりたい人？と、質問すると大きな声で何人もの生徒が手を上げました。マラウイの子供達は様々な情報量が日本より少ない事は事実です。こうした交流を通して子供達の視野が広がり、新たな夢や目標を持ってくれるきっかけとなってくれるだけでも嬉しい事です。一方日本の子供達にマラウイを知ってもらえた事は、双方にとって大きなプラスになるものだと思います。マラウイは残念ながらまだまだ他国からの援助が必要な国です。日本の方に知ってもらえる事がマラウイを助ける事に繋がると信じています。そして日本の子供達にも、日本に住んで居るだけではなかなか気づけない日本に生まれた有難さ、マラウイの幸せ、世界の近さ、多くの事柄を感じてくれたと思います。また、交流が終わった後感謝の意を込めて、日本伝統の一つでもある折り紙を生徒全員に配りました。折り紙を配る際の子供達の目の輝き様は私の心にも大きく焼き付きました。私にとってもこの経験は大切な一コマとなりました。ご協力していただいたすべての皆様に感謝いたします。

〈DOWA2 Primary School〉

※日本の小学校

公立学校（無償）

全校生徒：約1500人

1年生から8年生（各1クラス）



マラウイ通信

渡邊拓人 17-2
行政サービス
ドーワ県立病院



【後記】未だにマラウイ国内では選挙騒動が収まっていません。先日は100万人規模のデモがあると報道され、私達JICA関係者は全員外出禁止命令が再度発令されてしまいました。また、8月末にはデモ隊による首都空港占拠宣言があり、マラウイ国内外の多く人に影響を与えております。今後の自分のスケジュールにも大きく関わってくるので、一刻も早く事態が落ち着いてくれる事を願っています。話は変わりますが、最近では3回目のジャカランダの花（青紫の花を咲かせる樹木）を見る事ができて幸せを感じました。去年の花が散った際に、もうマラウイではこの花を見る事ができないと思っていたので、小さな事ではありますが素直に嬉しく感じました。マラウイに居ると小さな事でも心から幸せを感じる事ができている気がします。この幸せに向き合う事・感じる事って実は本当に重要な事なのではないかと最近深く考えます。